

劉岱墓誌銘

永明五年(487)
(南朝・齊時代)

歴代墓誌銘にみる 書法の変遷⑥

木雞室

木雞室

伊藤滋

図版④



図版②



図版③



六朝時代の墓誌銘は、北魏王朝に関するものが多く、南の南朝に関するものはそれほど多くない。前回の『劉懷民墓誌』も南朝の珍しい作である。『劉岱墓誌銘』は、南朝の斉・永明5年(487年)刻である。1969年に江苏省句容県から出土した。全体に保存がよく、この時代の北方、北魏王朝の墓誌銘と比較すると大いに洗練された書風を示す。

している。図版②に示したのは、隋時代の書かと見まごうばかりの安定した結構を示す文字を抜き出した。横画や転折の筆勢は滑らかな抑揚を示し、隋唐の楷書の筆勢に近いところがある。しかし図版③の文字は、やや扁平な北魏楷書に近い結構を示している。北魏の雄強な筆画をえた楷書とは異なり、平静、温雅な趣のある

優れた楷書であろう。解放後出土した墓誌銘の名品ということが出来よう。以前、南京、蘇州を巡ったときに、この墓誌の原石を確認したくて、鎮江市博物館で特別参観したことが思い出される。次号は北魏時代の「司馬景和妻墓誌銘」です。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

齊故監餘杭縣尉府君
墓志銘

高祖撫字士安彭城內
史夫人同郡孫荀公

後夫人高密孫安寢

曾祖奕字子明山陰令



書道芸術院

平成の群像 (2011)



第43回（平成18年）宮城県芸術祭書道展「螢」鹿島茂詩



浜田 堂光

就職して四・五年経って、久しくご無沙汰していた叔父（浜田一堂）に挨拶方訪問（白石）した。叔父は土曜教室で多くの子供たちの指導をしていました。挨拶をするか、しないうちに叔父は「俺、用事があるので出かけてくるから子供たちの相手をしてくれ」と言って朱筆を預けて外出した。

突然の出来事であつたが、何とかその場を凌いだ。それが私自身の日常の務めの超多忙さとの精神的ギャップが大きく、非常な爽快感を味わえた事を今でも覚えている。

そんな時、教室に来ていた佐藤無極氏（現評議員）、大槻秀碧氏（現常任総務）、及川硯泉氏、岡崎朴堂氏（一人は途中筆をおく）に出会う。以後は五人会で展覧会作品制作や、研究会・飲み会で過ごした。ただ言えることは、長いこと筆をとり、友人・仲間とめぐりあって来た事は自分にとってかけがえのない財産となってきたことを嬉しく思う。

作品制作についての想いは正直いってよく解らない。仲々想うようには書けない。解らないから一作・一作ごとに何かを求めている姿がそこにある。

それが自分にとって、とても生甲斐のあることで満足している。

その時、その時に向かう詩文のこころを、自分なりに感じ、表現し、発表することで解つて頂ける程度である。

掲載した作品は、宮城県芸術祭書道展に出品した作品ですが、この詩文は宮城蔵王の麓に住む詩人・鹿島茂氏の書かれたものです。氏が書かれている詩文は、いつも実生活体験での生きた原風景であります。力強い叫びであると思っています。この活字のひびきに心が高鳴り筆をとりました。これからもこのスタイルで作品制作をつづけます。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第64回書道芸術院展中央展終了

2月1日より6日まで東京セントラル美術館と銀座画廊美術館にて開催された第64回展中央展は財団役員のほか上位入賞作品を中心として二八〇点余が陳列され、三〇〇〇名余の参観者を得て無事終了した。

会期中の5日午後には帝国ホテル富士の間に作品研究会、表彰式が五〇〇名余の参加者を得て、恩地春洋会長、峰雲選考委員の先生方により各部より作品を取り上げ、スライドにより作品のポイント、狙いなどを解説していただいた。時間の関係上あまり多くは取り上げられなかつたが広い会場でゆつたりとして内容も充実。

引き続いて同会場にて表彰式が行われ、峰雲賞以下各賞が財団理事によりそれぞれ授与された。審査会員候補大賞・準大賞・白雪紅梅賞、無鑑査は院賞以下秀作賞まで全入賞者に、一般公募は準特選・佳作は全員、褒状は代表に授与された。会場の富士の間は広々としてゆとりがあり晴れの舞台としてふさわしかつた。受賞者の喜びの笑顔が美しかつたのが印象的であった。

5時半から会場を二階孔雀の間に移

会と顕彰式が奈良日航ホテルにて開催の予定。詳細は次号にて東日本展と併せ報告する。

第46回高野山競書大会への出品協力を

毎日現代女流書一〇〇人展開催

本年より会場を日本橋高島屋に移しての開催となつた毎日現代女流書展は一〇〇人選抜と本年審査会員へ昇格される新鋭作家により開催された。以前より天井がやや高くなり広々として見やすくなつたこと、交通便利になつたことなども影響し観客がかなり増加したことなどが特筆される。高島屋のブランドの高さに負うところも大きい。

当番審査員 恩地春洋・辻元大雲
運営副委員長 種谷萬城
運営委員 飯高和子
事務局委員 小伏小扇・下谷洋子

毎日新聞社堂馬隆之氏、評論家田宮文平氏、東京国立博物館学芸部長島谷弘幸氏からご祝辞をいただき、糸賀靖夫し、評論家・報道関係者をお招きして総勢六百余名の参加による祝賀会が、大野祥雲常務理事の開会、恩地春洋会長・辻元大雲理事長の主催者あいさつ、幸氏からご祝辞をいただき、糸賀靖夫

子の両氏が担当、参観者の喝采を浴び声で盛大に開宴された。

毎日書道会専務理事による乾杯のご発行され、本院からは飯高和子、下谷洋子の両氏が担当、参観者の喝采を浴び声で盛大に開宴された。

* 作品締切 5月20日

書の教室課題などリニューアル

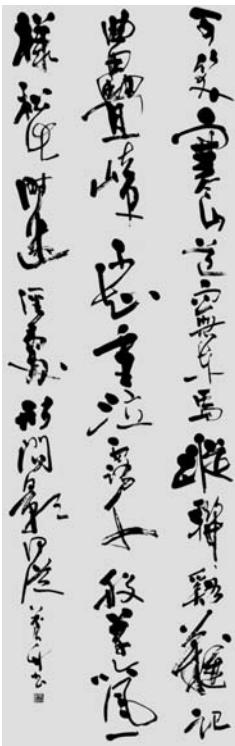
姉妹誌「書の教室」は四月号より課題などを大幅に見直し、現在学校現場で取り扱われる書写のスタイルに合わせるように変更した。これまで四文字表現が中心であったが、二文字、更にカタカナ表現も多く取り入れることとした。指導者は学習指導要領に準拠して丁寧な指導をお願いしたい。

○ 関西展開幕
2月23日より27日まで第64回書道芸術院展の関西展が奈良県文化会館にて開幕、26日には出品者による祝賀懇親

漢字(六)

名越蒼竹

私の考える理想的な書作



これまでの私自身の書作を振り返ってみたとき、書き初めに狙っているイメージはあるが、結局終わってみれば「こうなってしまった」という経験ばかりである。意図と結果が直線的につながっていない実態からすれば、ここで「主張」を述べるのもおこがましい話であるが、現在の私が考えている理想的な書作のあり方を述べてみたい。

一般に最初の筆は紙の右上から下ろされる。その時の第一画の有り様は最も自由度が高い。次の点画や文字の書きぶりは前の点画や文字、あるいは行

の結果を受けざるを得ないから、行が感じないように、あらゆる要素で「完璧な」書も実は芸術として最高とは言えないかも知れない。

私の書作の理徳は、ちょっとしたスキを残し、偶然の積み重ねの結果が作品としての必然となってしまったと裝うことである。が實際にはそれが難しいから、書稿を作ったり、何枚か書いてみて修正を加えたりしているのが現実である。

進むにつれ、また作品下部になるにつれ制約が多くなる。最後の落款、印がそこにそのようにしかあり得ないかたちで収まった時、作品は完成となる。しかし非の打ち所のない人には親しみを感じないように、あらゆる要素で

「完璧な」書も実は芸術として最高とは言えないかも知れない。

私の書作の理徳は、ちょっとしたスキを残し、偶然の積み重ねの結果が作品としての必然となってしまったと裝うことである。が實際にはそれが難しいから、書

前衛書(六)

工藤永翠

21世紀の書 —私の主張—

「アルデバラン」(後に続くもの)というタイトルの作品を、有り難い事に私が住むむつ市の市長のご要望があり、市に寄贈することになった。この作品は、平成22年現代女流展新進作家展に出品したもの。毎日展会員賞受賞後の事もあり、かなりのプレッシャーだったが、今まで以上に墨色、紙質を吟味し濃墨で挑戦してみた。「白雲自ら去来す」この言葉のように、「一生懸命やるべきことに取組む、その一心だった。

過日、小竹石雲先生とお話をした際に、先生が「進んでは戻り、また進んでは戻りと、一步一步時間をかけて勉強し、確実に身に付けていくことが大切」と話された。その通りだと思った。年月を重ね、多くの物を見、感性を磨き、沢山の人との出会い、そして日々の鍛錬、それらが作品に反映していく。今後も微力ではあるが、後に続いてほしいと願う若い人や子供達と共に、前衛書のみならず、「書は楽しい」という理念のもとで日々研鑽を積んでいきたく。本来、書が好きで楽しいから入った世界なのだから。

物事は続けていくことだけが難しい・・・。継続は力なり。敢えて難しい事に挑戦し続けることで、新たなる書の世界が生まれていくのだろう。

「アルデバラン」



第42回 現代女流書100人展

併催=現代女流書新進作家展（第62回毎日書道展会員賞受賞作家）

会期=2011年2月1日(火)～7日(月)

会場=日本橋高島屋 8階ホール

主催=毎日新聞社 後援=毎日書道会

△問△

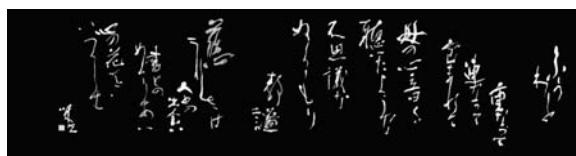
香川倫子



90×91cm



飯高和子



〈卯のとしを書く〉巻子

32×259.5cm



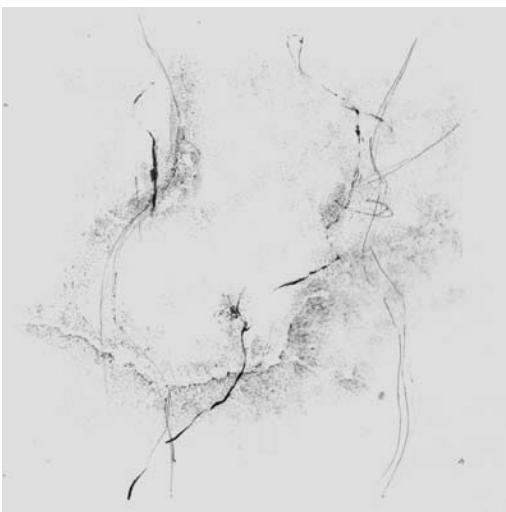
砂本
杏花

〈濤音を歩きつづける月の海〉(井越芳子)
105.5×136cm



飯田
春香

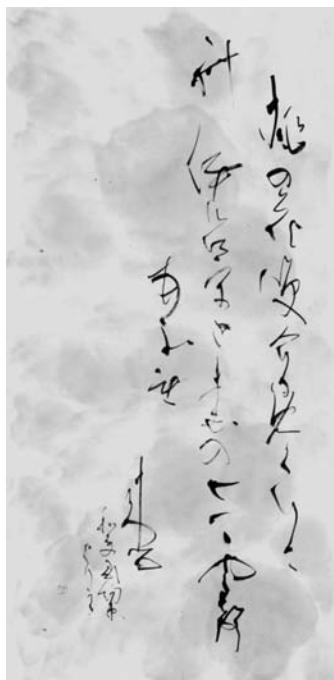
120×120cm



真下
京子

111×112cm

〈約束〉



下谷
洋子

142×70cm



〈水壺玉鑑〉

最首
翠風

107.5×53cm

特集：現代女流書100人展

太田蓮紅



〈SIN—こころ—〉

115×137cm

〈心華〉



147×40.5cm

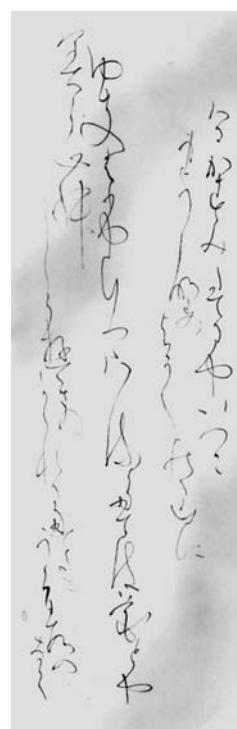
小林琴水



〈虚空の静寂〉(映画「地球交響曲」より)

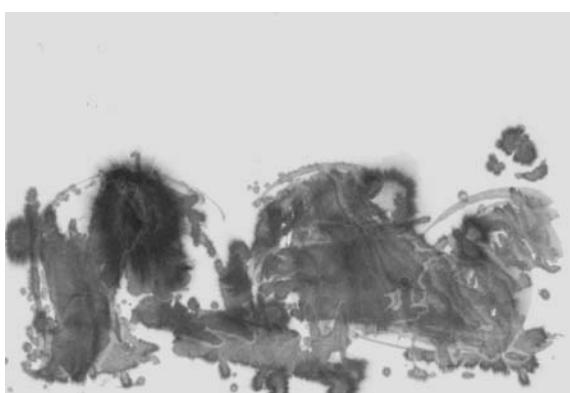
102×132cm

〈春霞たてるや……〉古今和歌集



183×60cm

金木和子



〈陽影〉

91×134.5cm

山藤美知子

用紙 半紙普通判

左の法帖の中から何文字臨書してもよい。（掲載部分以外は不可）

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

〈解説〉 曹全碑の第一の特徴は、流麗な波勢を他のどの漢碑よりも強調している、それによって生まれる優美な風韻である。文字の概形は、台形を押ししつぶした下寬の字が多くなるが、楷書のように頭部を尖らせず、できるだけ平にしようとしている。楷書は右下でそろえて安定させようとするのに対し隸書は上部を平にそろえて安定させる。

嶽。鄉。明。而。治。庶。

使。學。者。李。儒。樂。

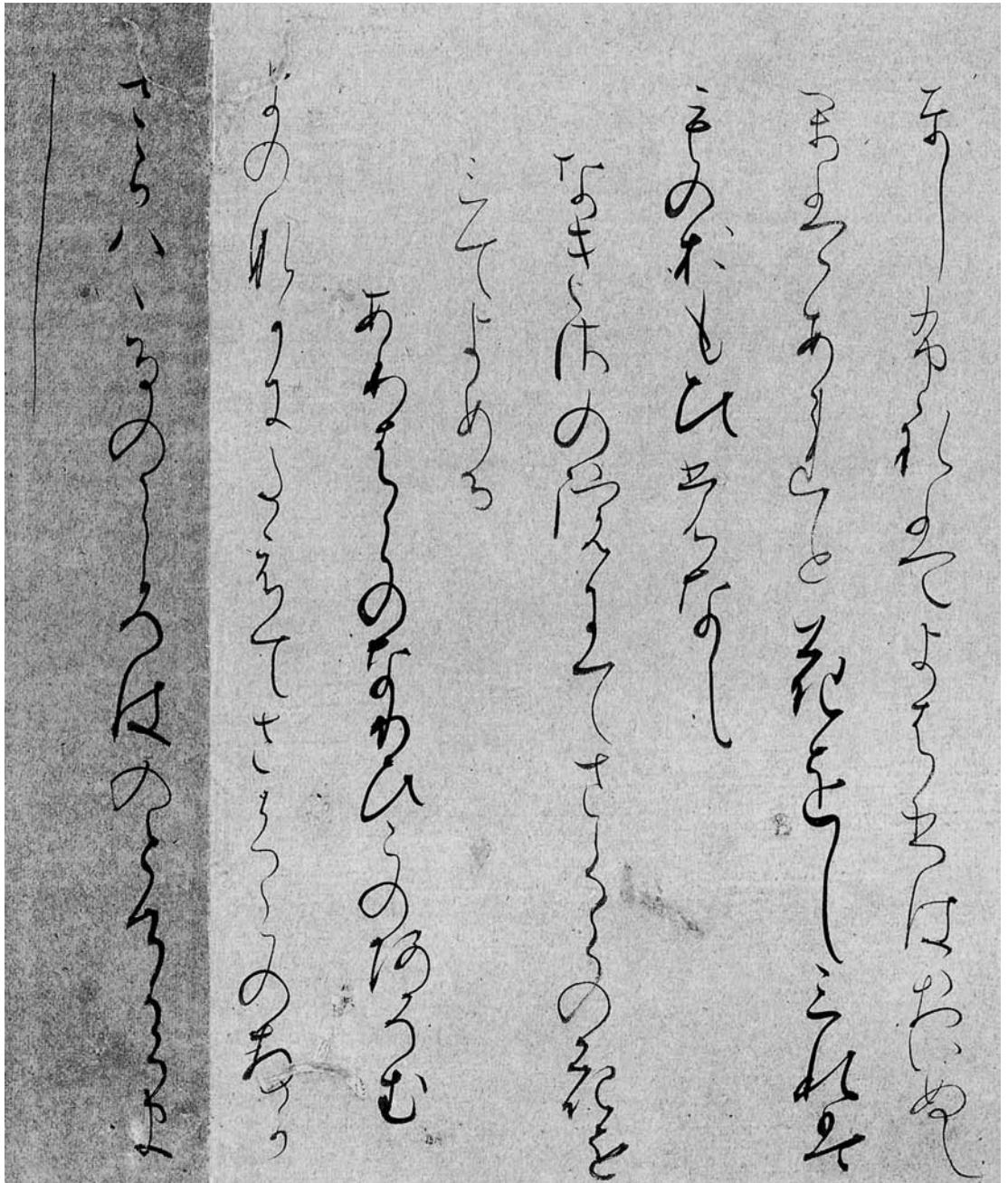
規。程。寅。等。各。獲。一

〈次号予告〉 九成宮醴泉銘



特別研究部臨書課題 || (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

注 — かな研究部競書作品は、
上の古筆の掲載部分より
歌一首以上を書く。
— 全臨も可



よみ

東布礼
としふればよはひはおいぬし
開鑑
かはあれど花をしみれば

毛於
ものおもひもなし

なぎさの院にてさくらの花を

みてよめる

利者
ありはらのなりひらのあそむ
よのなかに那可尔多
たえてさくらのさか
ざらばるのこゝろはの介可
どけからまし

解説

関戸本古今集の用筆は、逆筆、順筆、直筆、側筆と多面的で、ある時はぼつてりと大らかに、ある時は織細にと抑揚と粘りの変化が著しい。連綿では、右回転のダイナミックな連綿線に特徴があり、連綿線の长短の変化や意連も多く用いられている。字形は、極端な奇異な文字はないが、かなりデフォルメされたものもあり、ただ文字の組み合わせが巧みなため全体としてはよく整つて見える。

習い方解説 (六)

最首翠風

草木榮天下春

六文字の課題です。字数を意識し過ぎて過小にならぬよう、また右左の行が語り合うような構成上の配慮が必要でしよう。堅い牛耳毫を使いましたが柔毛で上質な線を楽しむのもいいですね。

副作品は木簡風の表現を試みたもの。「女性が木簡をやると胆力がついて良い」とは学生時代の伊東參州師の言葉。まだ帛書や残紙など発掘されていない時代のことです。それでも木簡を臨書すると漢代の人の息遣いが手に伝わって来たことを覚えていてます。



草木榮天下春

よみ (草木榮ゆ天下の春)

書体=自由

漢字規定秀級以下【四月十五日締めきり】用紙半紙普通判

小林琴水選書

習い方解説 (六)

小林琴水

温故知新

今回が最終回です。お手本によく出てくる言葉です。スッキリと仕上げることに努力しましたが、むつかしい字句です。横画を細く書くことで、スッキリ書けるかと思いますが、弱くなるので、強く書くことに注意しました。タテ画の太い線とのバランスに気をつけましょう。



温故知新 よみ（温故知新）

書体＝楷書

習い方解説 (六)

石井明子

まさをなる空よりしだれ
さくらかな
(富安風生)

うゆくちやう
空ぞ

かくしてくらう
わせ

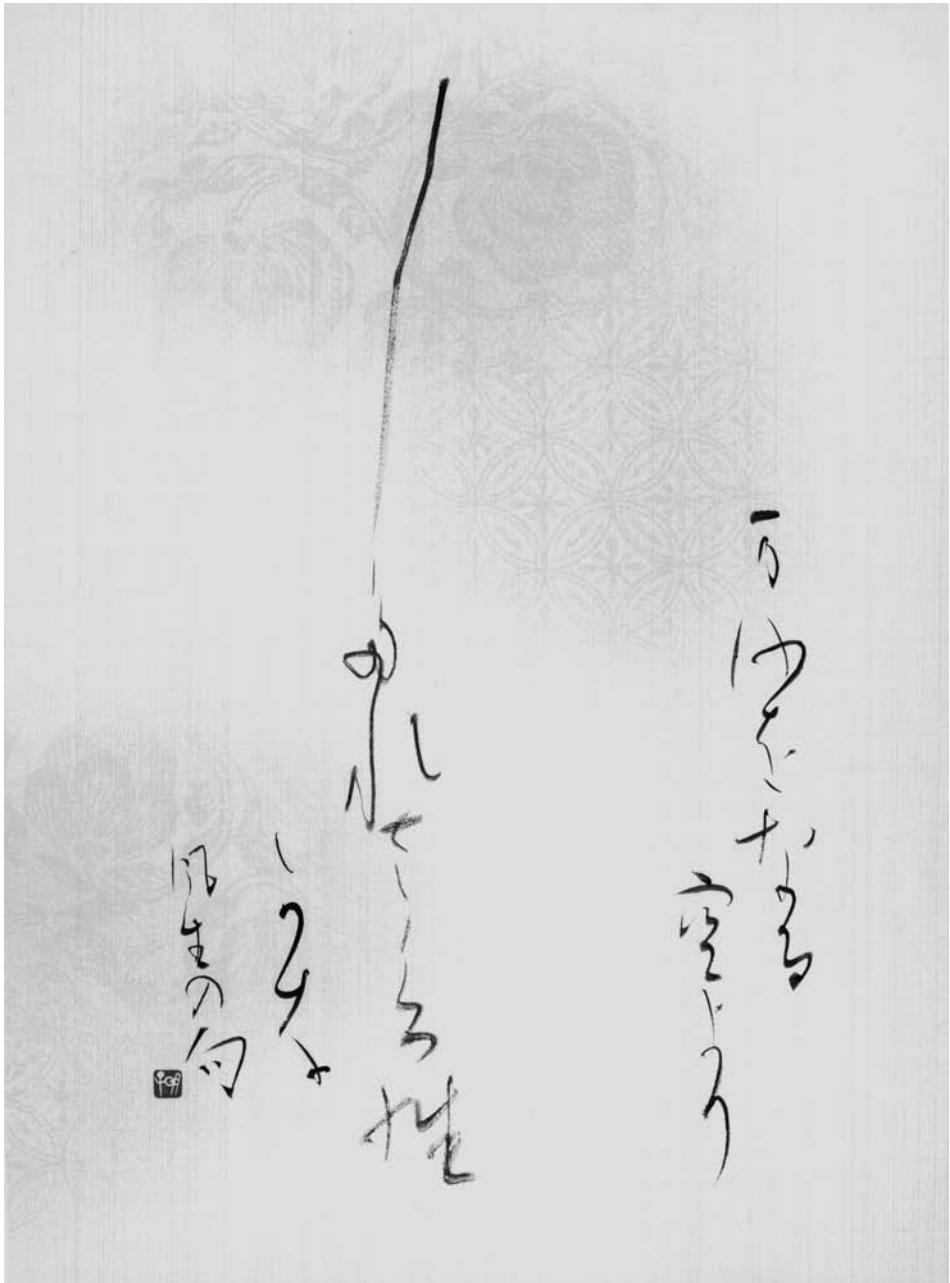
印

•書きすぎないようになら常に諫められたことが身について、あらゆる意味でシンプルであろうとして制作をしています。結果、何かもの足りない作品になってしまふことを繰返しています。
悪あがきに嵌り込んでいるわけですが、悪あがきはした方がよいのだそうです。先を歩んでいる人に聞いてみて下さい。いい書が生まれるに王道はないのでしょうか。
この題材に決めたとき、構成はすぐイメージできました。しかし、紙面にのせると思いつには描けず、大きなギャップを感じました。それを埋めるために、沢山のデッサンを試みました。今回は中央のしの墨量が決め手となりました。そこで折合いをつけました。

よみ方

ま(万)さ(沙)をなる空よりしだ(多)
れさく(久)ら(羅)か(可)な(奈) 風生の句

創作

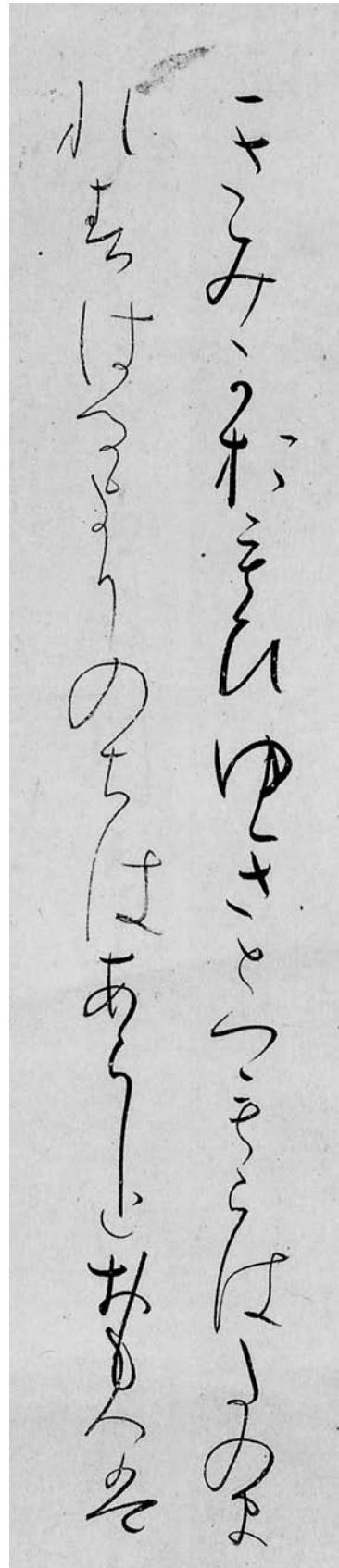


かな規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 きみが(可)お(於)も(毛)ひゆきと(つ)も(毛)らばた(多)のま

れず(春)はるよりのちはあらじとおもへば(盤)

習い方解説 (3)

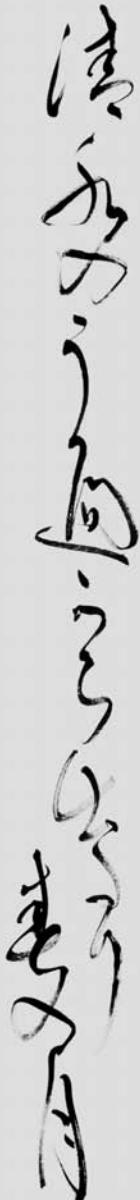
木村 東舟

かな条幅規定【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村 東舟 選書

清水の上から出たり春の月

(森川許六)



よみ方 清水のうへ(遍)か(可)ら出た(多)り春の月

創作

半折に俳句一句は文字が少ないため、布置に苦労します。
広い余白を如何に有効に使うかを考え、文字の大小・強弱に変化を持たせましょう。句の上部に幅広い字を置き、「出たり」を渴筆にして、右へ傾けることで一行の融合が計れ安定期します。

*たて形式に限る

習い方解説 (六)

西林乘宣



法門之領袖也幼懷貞敏早悟三空之心

(法門の領袖なり幼くして貞敏を懷き早に三空の心を悟り)

書体=自由

行草まじり。展覧会で一番多く見られる書体である。半切に限らず二・六、二・八でもどこかに山場を設ける—これは定石です。大きくとか、終画を伸ばすとか。殺されてしまつので要注意。また、しあしそれを何か所もやると相単体で構成するのに対し、糸のからむように連綿調も面白いものである。手本にしばられず自在にどうぞ。

漢字条幅規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲 選書

習い方解説 (六)

辻元大雲



今夜明月却如霜 竹影横窗更清絕

(今夜明月却て霜の如く 竹影窓に横たわりて更に清絶)

書体=自由

今回も十四字二行書です。参考例はやや強い行書で連綿も入ります。明清を代表する王鐸などを想定してみました。この場合点画をあまり省略せず、やや繁雑な感もあります。ありますが、ぐいぐい書き流していき、筆はやや硬目の狼毫筆を使用してます。柔毫筆で潤滑の変化をねらってみるのも面白いと思います。

習い方解説 (六)

牧 泰濤

雛祭。三月三日の桃の節句に行な

う。ひな壇を作つて、ひな人形を飾り、

ひー餅、白酒、桃の花などを供える。

古くは源氏物語にも出でている。

草の戸も住むる代ぞ雛の家

芭蕉句

泰濤かく

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること。)

担当最後の月になりました。まとめとして次のことを考えてみて下さい。

1、姿勢はいいですか。背筋は伸び、体は左や右に傾いてないですか。

2、執筆は、指に力を入れすぎないよう

に。

3、一時に、多習するのではなく、少しずつ、毎日くり返し練習しましょう。

4、先生よりいただいた「手本」は、字形はもとより一点一画の方向、長

短までよく観察すること。

5、手本を見ないでも書けるまで書き込むこと。

6、自分で朱筆を入れて、自己反省が大切。

技術の向上に特効薬はない。唯々コツコツと久しく積み重ねた練習量。これが自分が自己を高みに押し上げてくれる一番の早道である。と思う。

今月の

ホープ作品
各部総評

No. 597

漢字部 師範 松田 藍華

鷄毛筆使用と想像する独特の破筆の効果を生かし、明快な運筆のリズムで構築性ある篆書作品。

◎漢字部総評 上級者書体書風の変化ある作多し。但し骨格の乏しさが目立つ。下級者基礎基本を充実鍛練してほしい。（大雲評）



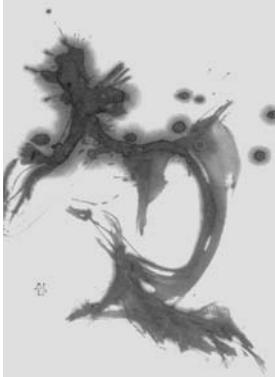
かな条幅部 師範 近見 依未

かな条幅部 師範 近見 依未
ゆつたりと大らかに運び落ち着いた作品。条幅にしては少々線が甘いが古筆を巧く取り入れました。◎かな条幅部総評 変体がなの介・所の誤字が多くた。手本をよく見てリズムが出るまで書き込むこと。創作はその後です。（洋子評）



漢字条幅部 師範 東 花子

油彩画を思わせる重厚な線。章法上は改善の余地ありと思うが何よりこの熱気が魅力である。



◎漢字条幅部総評 課題のイメージから単体作品が多くた。余白への配慮がこの場合成功のカギとなる。

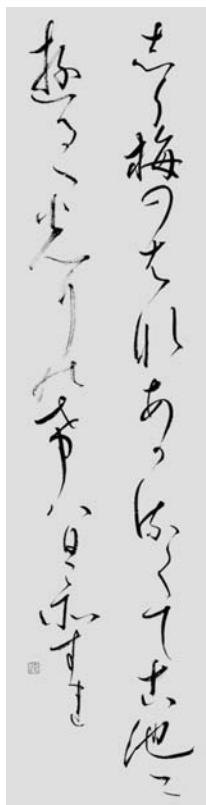
（翠風評）



前衛書部 特選 高橋 初江

筆の開閉運動と宿墨の特徴を生かし、大胆に動いた表情豊かな魅力的な作品である。

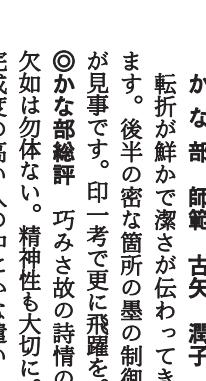
◎前衛書部総評 技巧に走りすぎた作が目立つ。心ゆさぶられる作が見たいと願う私の目。（蓮紅評）



現代詩文書部 特選 氏家 久光

自由闊達な動きのなかに作家の感性の豊かさをうかがわせる力作。墨色と速度の共鳴が美しい。

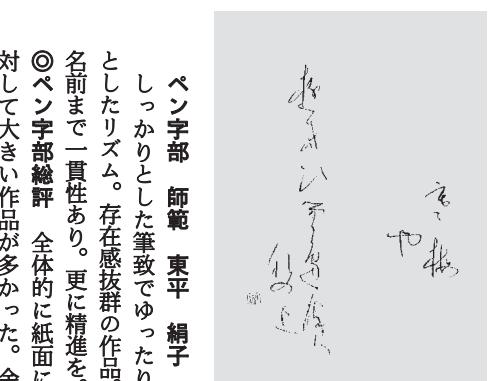
◎現代詩文書部総評 リズムから生まれる造形の研究をもつとしてほしい。（石雲評）



かな部 師範 古矢 潤子

転折が鮮かで潔さが伝わってきます。後半の密な箇所の墨の制御が見事です。印一考で更に飛躍を。◎かな部総評 巧みさ故の詩情の欠如は勿体ない。精神性も大切に。完成度の高い人の中にはかな遣いミス、誤字散見。確認を。（明子評）

漢字部 師範 古矢 潤子



書き初め 新年になつて初めて書や絵を書くこと。主としてやがたい詩句を選び、ふつうは正月二日に行う。筆始 吉書ともいふ。書き初めやうるしの如き大硯久文句 絹子

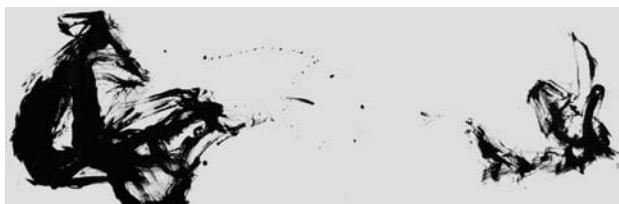
今月の

特別研究部優秀作品(特選)



岩崎陽光書

170×49cm



角田悠香書

「春の息吹」

前衛書
(四谷)

「春の息吹」

◆ 大胆に左右に展開する呼吸の大きさを感じる。左始筆部やや重すぎる感がある。上下動を工夫したい。

(大雲評)

◆ 中央を広くあけ、バランスの取り方はよく見かけるが、何よりも気の充満が末端まで感じられ雄壯。

(洋子評)

◆ 筆の流れの表現が少々無理を感じるが無駄な動きを整理すると動きに変化がもつと出るので。

(倫子評)

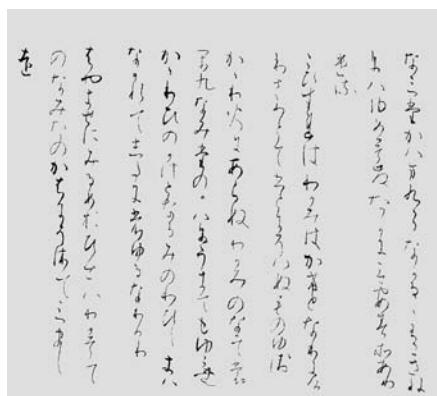
臨書 (うるいど)

木村順子

「関戸本古今集」



22×138cm



木村順子 臨

◆ 上品に線を使いゆるやかな流れがある。もう少し強めの墨つぎなど無理のない表現をつかみ美しく纏めてあるが少し弱さを感じる。

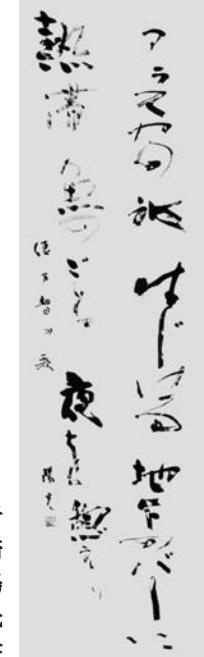
(蒼玄評)

◆ もう少々墨が濃い方がよいが、関戸の粘りを筆の閉閉でかなりつかんでいる。さらに呼吸を深くしたい。

(洋子評)

◆ 丁寧な臨書作。気持をこめて眞面目に運筆する姿勢を買いたい。関戸の強弱太細のリズムを更に努力。

(大雲評)



現代詩文書
(陽陽)

「俵万智の歌」

◆ 思わず口ずさむような楽しさを教えてくれる。かすれも流れによって変化つけられ全体纏つてる。

(倫子評)

◆ 静かな書き出し部から徐々に広がりを見せ、余白に微妙な呼吸を与える。飘々とした滋味溢れる作。

(大雲評)

◆ 訥々とした書き振りに先ず惹かれ、フレーズごとの間の取り方に独特の感覚が宿る。濃墨で白が輝く。

(洋子評)

◆ 二行目上部の渴筆の変化はほしいが全体としてはスムーズに流れている。名前の入れ方は一考を。

(蒼玄評)



60×180cm

前衛書

(四谷)

「春の息吹」

◆ 左右の固まりを極端にすらし中の空間を大胆にあけてスケールが大きい。左は墨量が少したたりない。

(蒼玄評)

◆ 筆の流れの表現が少々無理を感じるが無駄な動きを整理すると動きに変化がもつと出るので。

(倫子評)



江本興舟書

176×53cm



奥野佳泉書

漢字
(大雲) 江本興舟

「五言二句」

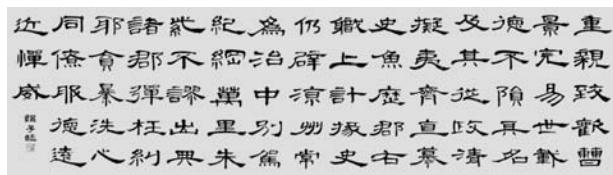
な } (白鷺)
奥野佳泉
「漱石の句」

- ◆ 筆の開閉と上下運動が魅力的である。一行目は少し固いが二行目線はリズムもあり最後の二字は白眉である。
(蒼玄評)

◆ 全体を墨の流れだけでなく表現され、筆の動きがよく見られ
て作品に変化が無理なく感じられる。

◆ 五言一句を大胆に展開する。大小肥瘦の変化のバランスよく、
魅力ある作。鋒先のコントロールを希む。
(大雲評)

◆ 柔軟な呼吸で気持ちよく書いている様が無理なく伝わる。筆
の開閉が生む造形もモダン。今後も期待!
(洋子評)



45×167cm

臨書
（森地）

「曹全碑」

◆隸書表現として安定した作。構成に無理はないが技術の高さを見せる。もう少しとりがほしい。

◆破磔が少し硬い感もあるが、形臨としてはよく特徴をつかんでいる。呼吸の緩急つけてもよいのでは。
(洋子評)

◆形臨に徹して横への波法が美しい。曹全碑にしてはもう少し線のふくらみがほしいが筆のせいか。
(蒼玄評)

◆一句表現では一般的だが、リズムの大胆さが魅力。墨量や線の太細の起伏がやゝ極端なのが惜しい。

(洋子評)

◆オーソドックスな構成で白と黒を大胆に表現した。一行目と二行目の墨の付ける位置を変えたい。

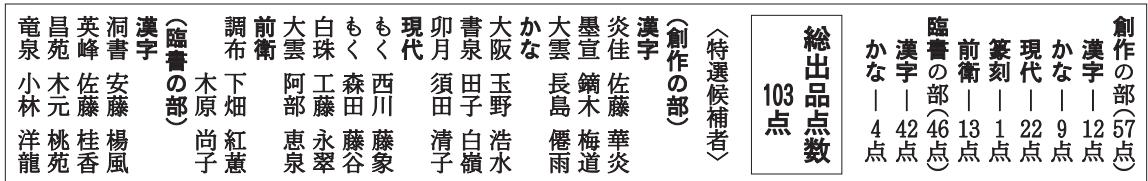
(蒼玄評)

◆かすれの表現は所を得て素晴らしい。墨つぎ一回目は墨量をひかえると最初と変化が出るのでは。

(倫子評)

◆俳句一句をのびやかに展開し、広がりある作。渴筆の動きが見せ場となつてまとまる。墨色一工夫を。

(大雲評)



25

漢字研究部

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



河 鄂 虚 送

漢字研究部 特選 河野 虚拙
◎漢字研究部總評
隸書の用筆に習熟し、のびやかに表現した秀作です。結体も整い、深遠にして紙面を切るが如く強靱な線もこの作品の魅力です。また、横画の終筆の処理が適切で落ち着きを感じています。今後の精進に期待します。

の努力に期待したい作品も少なくありませんでした。特に注意したいのは、隸書体の基本である水平な横画が右肩上りになっていたり、逆入平出ではなく楷書の用筆で書かれた作品も少なからずありました。「其」の縦画の上部が見えなくなっていますが、字典で調べてから書くことが必要だと思います。

The grid displays 16 calligraphy panels in Chinese seal script, each containing a unique arrangement of characters from the phrase "重親致歡曹景完易世載德不隕". The characters are written in a bold, square style. The panels are organized into four rows and four columns:

- Row 1:**
 - Panel 1: 重親致歡曹景完易世載德不隕
 - Panel 2: 完易世載德不隕其從
 - Panel 3: 德不隕其從
 - Panel 4: 隕其從
- Row 2:**
 - Panel 1: 重親致歡曹景完易世載德不隕
 - Panel 2: 完易世載德不隕其從
 - Panel 3: 德不隕其從
 - Panel 4: 隕其從
- Row 3:**
 - Panel 1: 重親致歡曹景完易世載德不隕
 - Panel 2: 完易世載德不隕其從
 - Panel 3: 德不隕其從
 - Panel 4: 隕其從
- Row 4:**
 - Panel 1: 重親致歡曹景完易世載德不隕
 - Panel 2: 完易世載德不隕其從
 - Panel 3: 德不隕其從
 - Panel 4: 隕其從

千祥由桂莉絹
鶴子峰香香惠子

佐治青香華
子悠美山葵秀

智房楊善桃香

瑞兆春梢柳裕勤

かな研究部
(関戸本古今集)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品

卷之三

松井知子

◎かな研究部總評

◎かな研究部總評
この古筆の特質である線の変化をよく捉えて、太らかに、紙面に墨色が匂ふような品格ある見事な作品と思います。

かな研究部成績表

秀高Nこ洞松高眞Hだ晝村崎		清こ京蘭如広A紅調小玉こ如五玉道誉千清A玉蓮前玉道月だ橋鼎月島I瑠布汀松だ月葉葉田葉月I松紅橋松秀	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	評
岩岩伊五安阿青崎上藤十藤久木鳳澤江洋都良佳楊隆理子佑栄風華	作	大梅吉川武熊伊須木永塩大治都遠鈴小神小藤小遊確橋松和原田崎藤谷藤田村瀬澤石田丸山木野谷林村川佐井本井由紀虹佑優房紫寿香翠春美星芳ど希え理雲嘉昌彩紅紅知江祥子枝蘭子舟薏汀紅祥江リ子繪卿江子香雅弘麗	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
麗澤佳	芳こ五蘭だ葉	前正千秀翠泉玉五仙竜紅竹彩明八竜高童椿大う生広千椿清石澄た橋葉水柳会松葉台泉瑠扇漢生泉崎泉翠阪の大島葉翠月習春か	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
秋山作	渡吉森三春永戸富近田田高高高高関嶺篠櫻酒後小小木菊川大遠江内宇岩邊野田崎山井村澤池野中橋橋木井口田田井藤林林村池本楓藤田田田理百与惠美	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選	
之扇	信彩睦敏勝宏博惠柳可耶正敏雅合小秋祢美龍知知晃萩順善南幸亥茂皓春春漢祥子美枝舟子芳三衣子子泉子秋麗子子貞子代江子高汀江渠夫泉華麗	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選	
も大竜もく雲景く入		坪昌北千竹玄も硯石正京玉玄椿大東土蓮澄一艸倉森秀江卯春有竜正う願正英N三樹若四幕彩大華豊梓正も大正金陵和苑葉處象く水習華橋松穹翠阪向氣紅春草玄吉地水龍月汀秋泉華る綠華峰H廬原葉谷張雲祥田江華く雲華陵	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
新朝浅青井倉川木み	遷	若吉吉湯山守森宮松松掘星二平比星成浪中中中東寺鶴津辰武高神進志佐坂後近工北北岸河加大小伊板礫石阿菜田田本村屋田澤丸岡川野上山田山澤澤川村澤江平澤田田本山保藤水藤藤本藤藤藤村田合藤野橋藤貝橋部十か加み由寺	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
藤爽な啓雪陽江子	啓	矩翠四禮炎順藤草愛律魯紅紫つ代芝瓈香秋一雅よ絆悟恵幸光芳花佳寿起封麻桂み祥淑山秀惠東和雅エ佑英藤清知菜子綾子秀子谷秋石子春咲泉子香美蓮花琴子子子子枝泉子子美香よ子子房子舟子敬芳華朋子竹耀子華	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
千硯八百皓葉雲谷映		千石湘八硯昌竜大京調東東昌正玄英蓮梓竹如青廣安大明樹春翠彩渡東久洞童千桂千和石硯筑華岩誠遊大う千葉雲谷映葉習南街水苑阪橘布小光苑華象峰紅江扁月峰島波阪漢原汀柳辺縁寶書泉葉月葉平習水桜祥沼と雲阪る葉	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
洪柴七穴重紫澤佐佐佐坂後	谷	後近小小木木吉菊川河金鹿香小押小奥冲岡大大薄岩岩今井猪井犬伊板石石池池飯飯條戸信雲田藤藤々々巻藤藤林藤暮元原下瀬池元岡子島川野山澤山崎嶮沢田渕沢村田閑野又上飼藤藤垣崎田田高佳木木み美寺佐元	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
愛翠裕裕煌大夢町雅麗良喜松雅さ祥輝都彩玉柔星蘆裕富久純と翠和翠信淳春祥芳貴梨玉理英道紫悦青正甘尚萩幹光華泉美秀映月鶴子子華芳宛泉萩春子ゑ峰華苑子雨蓮仙扇城子美子子峰子園子子綠宛仙泉霞香扇二石邦子鳳子雨古溪生彩		かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
大明竹白華玉童紅右春澄五幕大山百木高正泉春有秀澄銘千有上洞秀椿遊千秀春大童湘大や有椿渡秀幕高紅声大誠樹光選阪漢み美鷺祥川泉苑田汀春葉張阪王谷曜麗華会汀秋水春子葉秋泉書水翠雲字畠汀雲泉南阪ま秋翠辺水張麗香阪と原昭		かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選
250六吉吉横山山谷森茂村宮真松松前本掘堀星北藤福深深平浜濱花橋西永長渡積土田田田竹田高高高鈴神新庄嶋名波田山崎崎知田木田野内庭島佐島郷江井野條井田島堀澤山本田田里本澤守島子田谷中中玉澤森口橋野木木野公司名略等鶴美蘭香桜美龍真秋澄幸翠白代谷幸法道靖晴キ歌清佳彩ズ陽竹智日彩一紀雅育吉美哲悦弓み初賢章智香萩翠咏由王子子舟織江子博蘭堂校平タシキ舟鉢子惠泉子枝子子子洗月華エ一雪子和峰薰水子雲子恵枝子子子江雲治広楓碧光艸香		かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かれたものが多く見られ、日頃のした。墨色の極端にうすいもの、意して書いて下さい。	かな研究部特選